

野生下に生息するトキの数 369羽 (10月26日時点の推定個体数)

2008年の最初の放鳥からこれまで19回の放鳥を行い、2020年までに220羽のトキを定着させるという目標を2年前倒して達成しました。

市民、大学、研究機関、行政等による生息環境整備などや、分散飼育地で飼育したトキを佐渡に放鳥するなど、多くの方々のご努力とご協力のたまものです。

トキ野生復帰事業は次のステージに移行しました。これからの10年は、人とトキとの共生による良好な環境の維持や交流人口の拡大やブランド化により、佐渡の地域経済が好循環といった持続型社会の実現が必要となっています。

今後、さまざまな取り組みをしていきますので、皆さまのご協力をお願いします。



中国から2羽のトキを提供していただきました

佐渡の自然界に生息するトキは、過去に中国から提供いただいた5羽の個体を元としていることから、遺伝的多様性が少なく、ある種の病気に弱いなどの可能性が指摘され、定着に向けての課題となっていました。

10月17日、中国から提供された新たなトキの個体、雄の「楼楼（ロウロウ）」、雌の「関関（グワングワン）」が佐渡に到着しました。新たな血統を持つ個体が入ったことにより、課題であった遺伝的多様性が増加し、トキの真の定着に向け大きく前進することが期待されます。



中国から提供を受けたトキの「楼楼、関関」

日本のトキの主なあゆみ

- 1952年 国の特別天然記念物に指定
- 1967年 旧新穂村に新潟県トキ保護センター開設
- 1981年 野生下に残っていた5羽すべてを捕獲し野生下絶滅
- 1993年 保護センターが旧新穂村長畝に移転、佐渡トキ保護センターに改称
- 1995年 日本産最後のオス「ミドリ」が死亡
- 1999年 中国から贈呈された「ヨウヨウ」「ヤンヤン」のペアから「ユウユウ」が誕生し国内初の人工ふ化に成功
- 2003年 日本の野生最後のトキ「キン」が死亡し、日本産トキ絶滅
- 2007年 新穂正明寺に野生復帰ステーション開設
- 2008年 第1回試験放鳥で10羽のトキを自然界に放鳥
- 2012年 放鳥トキのペアからヒナが誕生し、野生下で36年ぶりに繁殖に成功
- 2013年 トキの森公園に「トキふれあいプラザ」オープン
- 2016年 40年ぶりに野生下生まれ同士のペアからヒナが誕生

お問い合わせ 産業観光部農業政策課 トキ保護係（トキ交流会館内） ☎ 24-6040